



郡山市喜久田町
宇倍神社

因幡一宮・宇倍神社

鳥取市国府町にある宇倍神社は、武内宿禰を祀る神社として、大化4年（648）に創建されたといわれています。戦国時代に一旦は兵火のため焼失しましたが、鳥取藩主池田家の崇敬を受けて復興すると、明治4年（1871）には国幣中社となり、明治31年（1898）、現在の本殿に建て直されました。（『国府町誌』より）

今では、毎年のように県内外から大勢の人が参拝に訪れ、特に正月には、参道を埋め尽くすほどの初詣客で賑わいを見せています。

ところで、鳥取以外にも宇倍神社があるのをご存知でしょうか？それは、鳥取市から約1,000km離れた福島県郡山市喜久田町に祀られています。

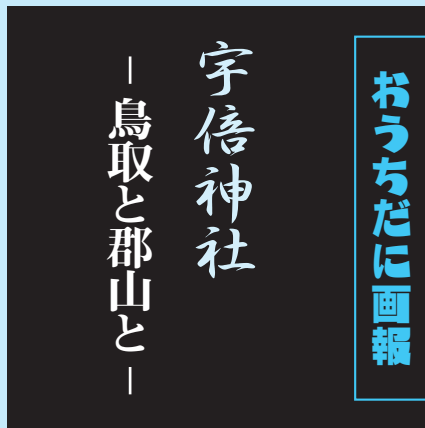
鳥取士族の開拓移住が深く関わっている！？

郡山市は福島県の中央部に位置し、現在は人口30万人以上の商業都市です。しかし、約130年前の郡山市を中心とする地域は、安積野と呼ばれる荒れ果てた原野でした。

このような原野に水をもたらすため、明治12年に明治政府は、猪苗代湖から安積野原野へ水を通す工事（安積疏水事業）を始め、安積野原野の開拓を殖産

興業と士族授産を目的とした国営事業として進めました。

当時、元武士階級であった士族たちは、明治政府の改革により、職や財産を失い、生活が困窮していくことで、政府に対して不満を持つ士族たちが増えていきました。鳥取士族も決して例外ではありません。そのため政府は士族たちに職を与え、生活を安定させることが、大きな課題でした。そこで政府は士族を安積野へ移住させ、開拓事業をさせることで、これらの問題を解消しようとした。



鳥取士族たちはこの政府の呼びかけに応じ、明治13年から69戸が順次移住したのでした。しかし移住後の開拓生活は、困難な開墾事業と慣れない農事で、彼らが大変苦しめました。

移住者の心の支え・宇倍神社

鳥取士族たちは、このような苦しい生活に耐えるため、明治16年、国府町の宇倍神社の分霊を奉祀し、明治36年に福島県知事より宇倍神社として許可されました。

今では鳥取から4時間足らずで郡山に着きますが、当時鳥取士族たちは約3週間かけて移住しました。このような遠い未開の土地で、苦しい生活に耐えられたのは、遠い故郷から分霊した宇倍神社が、彼らにとって心の支えとなったからで、その存在はとても大きかったのです。

最後に、鳥取市鹿野町にある加知弥神社の宮司だった飯田秀穂が、郡山の宇倍神社を訪れた際に詠った歌をご紹介します。

喜久田村なる宇倍神社より詣でて
いわしる 因幡
岩代と いなばと道は 遠けれど
御稜威
みいつあまねき 宇倍の大神
秀穂

岩代=岩代国、郡山市を含む福島県中西部地域の旧国名
みいつ=神の威光

（鳥取市歴史博物館 奥村寧子）

鳥取市歴史博物館

郡山市・鳥取市交流記念事業

『鳥取士族の郡山開拓移住
～刀を鎌に持ちかえて～』

2月11日（祝）～3月6日（日）

〈関連事業〉

特別対談『郡山移住を語る』

2月13日（日）午後2時～3時30分

※要電話予約、参加無料

対談者 日本大学工学部教授
（敬称略） 矢部洋三
鳥取敬愛高等学校教諭
小山富見男
鳥取市歴史博物館学芸員
奥村寧子

■問い合わせ先 やまびこ館 上町88
☎（0857）23-2140



鳥取市国府町
宇倍神社